

別途業者にも注意喚起

イチケンの長谷川社長
福岡で現場パトロール

イチケンは1日、福岡市東区みなと香椎で施工する「(仮称)ニトリ福岡DC新築工事」の作業所で安全大会と長谷川博之社長による品質・安全パトロールを行った。職長会代表による安全宣言などを行った後、



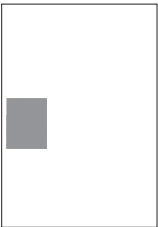
長谷川社長が現場の進捗状況や安全対策などを確認し写真左。工事が最盛期を迎える中、安全第一、無事故・無災害での完工に向け気を引き締めた。

安全大会で長谷川社長は約340人の職員・作業員らを前に不安全行動に対する互いの声掛けや作業手順の確認・順守を求め、「現場は日々危険箇所、安全通路が変わる。新規入場者にも教育をよろしく願いたい」と呼び掛けた。

太田信孝九州支店長は「KY(危険予知)活動により作業に隠れている危険を作業所、作業員全員で共有して安全作業の徹底を」と述べた。

パトロールで長谷川社長は竹村剛司所長から説明を受けながら現場内を最上階から順に視察。「工事は今後仕上げ段階になり、作業員が増える。(機械関連工事の)別途業者も含め声掛けを行い、注意喚起してほしい」などと話した。

同社が設計・施工を手掛ける工事ではS造6階建て延べ9万6786平方メートルの倉庫・事務所を建設する。工事進捗率は62%で工期は2025年1月まで。竹村所長によると作業員が多いため、安全対策として昼礼の打ち合わせに職長を交えるなど協力会社と密に連携しながら工事を進めている。



新規入場者訓練 の徹底など要請

ニトリ福岡DC新築で イチケンの長谷川社長

イチケンの長谷川博之社長は1日、福岡市内で同社が施工する「(仮称)ニトリ福岡DC新築工事」の現場を訪れ、安全パトロールを行った。写真。



同工事はニトリが計画する物流センターで施設規模がS造6階建て延べ9万6786平方メートルの大規模現場となる。工事は最盛期を迎えており、この日も約320人の作業員が入場した。長谷川社長は竹村剛司所長らとともに鉄骨溶接や各階スラブ配筋など工事が進む現場の安全衛生対策などを巡視した。

パトロール後、長谷川社長は「仕上げ工事に向けて作業員が増えるため、新規入場者の訓練を徹底してほしい。控えている足場の解体では手順に間違いがないよう注意してほしい。今後、現場内では機械などの別途工事が始まる。動線の確認などをお願いする」と述べ、災害防止に向けて注意喚起した。

イチケンの設計施工で2023年9月1日に着工し、工期は25年1月14日まで。現在の工事進捗(しんちよく)率は62%で、工事は順調に進んでいる。所在地は同市東区みなと香椎3-29-10ほか。